

小・中・高校の学びをつなぐ「指導記録用紙」と 「ポートフォリオ型ワークシート」の開発

－住生活の内容を例として－

伊波富久美*¹ 山村季代*²

The Development of the “Guidance Recording Sheet” and the “Portfolio Type Worksheet” for Sharing and Cooperation in Learning between Elementary, Middle and High Schools : An Example of House Life

Fukumi IHA* and Toshiyo YAMAMURA**

1. 緒言

小学校と中学校の家庭科の系統性と連続性を重視し、平成 20 年度版学習指導要領より小・中ともに内容が A（家庭生活，家族等）、B（食生活）、C（衣及び住生活）、D（消費生活，環境）の同一構成となった。さらに、次期学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、各学校種で育成を目指す資質・能力を相互につないでいくことが求められ、小・中学校の連携に高校を加えて、系統性の明確化が必要とされている。したがって、各学校種の授業構成にあたっては、校種を越えて内容を把握した上で、どこに力点をおいて授業を構成していくべきなのか吟味していく必要がある。

しかし、現状では、小・中・高校の家庭科授業担当者の交流や相互授業参観、共同研究等の機会は少なく、年間指導計画や指導内容、製作物などについて相互に把握することが困難な状況にある。

家庭科教育の学校種間連携の必要性については、塩谷他 (2014)、野中他 (2016) 等が指摘している。また、小・中学校をつなぐ授業実践として、福良他 (2013) の小・中合同での調理実習や高崎他 (2015) のガイダンス的な授業の実践・分析あるいは岡他 (2017) や山村他 (2017) の小中連携教育に関する実態調査なども見られるようになってきた。しかしながら、家庭科教育における小中および小中高の連携教育に関する研究はまだ緒に就いたばかりといえる。

小・中学校のガイダンス的な授業や高校での家庭科のオリエンテーションにおいて、既習内容の確認をすることは、前述の先行実践をはじめ、これまでも行われてきた。しかし、写真 1 に例示したように、高校生に既習事項についてアンケート^{注1)}を行ってみると、同じ中学校出身で、同じ授業担当者からまつり縫いの指導を受けていたにも関わらず、「まつり縫いができますか」という問いに対して、「できる」と答えた者がいた一方で、「したことがない」と答え

*1 宮崎大学大学院教育学研究科 *2 宮崎県立都農高等学校

ている者もいた。このように、同じ内容を学んでいたにもかかわらず、学習者によって“学んだ”とする内容が異なることが、学校現場ではたびたび見られる。

したがって、小・中・高校の接続を円滑にするために、前の校種の授業担当者が“指導した”とする内容についての把握のみならず、学習者が“学んだ”とする内容についても把握できるようにし、次の校種の授業担当者がそれらを照らし合わせながら授業を構成できることが重要といえる。

そこで本研究では、授業担当者が他校種の指導内容を相互に把握できる授業者用「指導記録用紙」及び、学習者一人一人が“学んだ”とする内容を把握できる「ポートフォリオ型ワークシート（以下、「P型シート」という）を開発するとともに、それらの試行的活用・検討を通して小・中・高校の学びをつないでいくための課題について明らかにすることを目的とした。

被服実習に関するアンケート	被服実習に関するアンケート	被服実習に関するアンケート
(前) 中学校出身 氏名 ()	(前) 中学校出身 氏名 ()	(前) 中学校出身 氏名 ()
1. 玉結びができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	1. 玉結びができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	1. 玉結びができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない
2. 玉止めができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	2. 玉止めができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	2. 玉止めができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない
3. なみ縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	3. なみ縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	3. なみ縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない
4. まつり縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	4. まつり縫いができますか ア. できる <input type="radio"/> できない <input checked="" type="radio"/> したことがない	4. まつり縫いができますか ア. できる <input type="radio"/> できない <input checked="" type="radio"/> したことがない
5. 半返し縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	5. 半返し縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	5. 半返し縫いができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない
6. ボタンつけが正しくできますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	6. ボタンつけが正しくできますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	6. ボタンつけが正しくできますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない
7. ミシンの糸かけができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	7. ミシンの糸かけができますか <input checked="" type="radio"/> できる <input type="radio"/> できない <input type="radio"/> したことがない	7. ミシンの糸かけができますか ア. できる <input type="radio"/> できない <input checked="" type="radio"/> したことがない

写真1 学習者によって異なる回答例

2. 研究方法

「指導記録用紙」は、小・中・高校の学習指導要領および同解説の記載内容について分析^{注2)}した上で、原案を作成した。

さらに、大学主催の家庭科研究会に自主的に参加している小・中・高校の家庭科授業担当者のうち本研究への協力が得られた18名^{注3)}(小学校5名、中学校7名、高校6名)に、原案の該当箇所への記入を依頼した。その後、申し送りや引き継ぎを行なう際の利点や問題点等について聞き取り調査を行った。調査期間は平成28年7月から平成29年2月である。それらを踏まえて、特に課題とされた内容について検討し、授業者用「指導記録用紙」の改善を図った。

「P型シート」の作成にあたっては、まず、堀(2013)、中嶋(2016)等の先行実践について検討し、小・中・高校の学びをつないでいく上でのワークシートの課題を明らかにした。それらをふまえて、小・中・高の各校種における住生活分野の「P型シート」を作成した。

さらに「P型シート」を用いた授業(全4時間)を、平成28年12月に、公立高校において

3年生40名を対象として実施し、「P型シート」への記述内容の分析を通してその有効性について検討するとともに、小・中・高校の連携を推進していく上での課題を明らかにした。

3. 結果及び考察

(1) 授業者用「指導記録用紙」の検討

まず各学校種の指導内容について検討するために、小・中・高校の学習指導要領および学習指導要領解説の指導事項を分析した^{注4)}。表1に各学習指導要領の住生活関連部分を中心に指導事項を示した。下線(実線)で示したように、小学校では「整理・整頓や清掃の仕方」が示されているが、他の校種には見られない。また、破線で示したように、「住居の機能」は中学校と高校(家庭基礎)で重複して見られる。このように、当該校種のみで取扱う指導事項や、校種での重複を各授業担当者が容易に把握できる構成にする必要があった。

そこで、学習指導要領および同解説からキーワードを抽出し、小・中・高校の指導事項を一覧できる表を作成し、指導の有無をチェックできる欄を設定した。さらに、授業担当者が相互に申送りしたいことを記入できるように「既習か否か確認したい事項」や「特記したい既習事項」の欄も設け、「指導記録用紙」の原案とした(表2)。

表1 各学校種における指導事項

小学校	中学校技術・家庭科(家庭分野)	高等学校 家庭(家庭基礎)
A 家庭生活と家族	A 家族・家庭と子どもの成長	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉
B 日常の食事と調理の基礎	B 食生活の自立	(2) 生活の自立及び消費と環境
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活の自立	ア 食事と健康
(1) 衣服の着用と手入れ	(1) 衣服の選択と手入れ	イ 被服管理と着装
(2) 快適な住まい方	(2) 住居の機能と住まい方	ウ 住居と住環境
ア 住まい方に興味をもって、 <u>整理・整頓や清掃の仕方</u> が分かり工夫できること。	ア 家族の住空間について考え、 <u>住居の基本的な機能</u> について知ること。	住居の機能、住居と地域社会とのががわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。
イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。	イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。	エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画
D 身近な消費生活と環境	(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫	オ ライフスタイルと環境
	D 身近な消費生活と環境	(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

— はその学校種のみで取扱う事項

---- は各学校種で取扱いの重複がみられる事項

表2 授業者用「指導記録用紙(原案)」(住生活)

() 小学校 指導者 ()
() 中学校 指導者 ()
() 高校 指導者 ()

	小学校	中学校	高等学校
	学習指導要領 <input type="checkbox"/> 整理・整頓 <input type="checkbox"/> 分類の仕方 <input type="checkbox"/> 収納の仕方 <input type="checkbox"/> 清掃の仕方 <input type="checkbox"/> 汚れの種類 <input type="checkbox"/> 汚れに応じた清掃の仕方	学習指導要領 <input type="checkbox"/> 家族の住空間 <input type="checkbox"/> 住空間と生活行為のかかわり <input type="checkbox"/> 共同生活の空間 <input type="checkbox"/> 個人生活の空間 <input type="checkbox"/> 家族によって住まい方が異なる	学習指導要領 <input type="checkbox"/> 住居の機能 <input type="checkbox"/> 生活の場としての住居の条件 <input type="checkbox"/> 家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択 <input type="checkbox"/> 耐久性の高い住宅 <input type="checkbox"/> 住居と地域社会とのかかわり <input type="checkbox"/> 地域の住環境
既習か否か確認したい事項	<input type="checkbox"/> 3Rを学習したか <input type="checkbox"/> 風通しを調べたか。 <input type="checkbox"/> 一酸化炭素の人体への影響を説明したか？ <input type="checkbox"/> 明るさを測ったか。	<input type="checkbox"/> 食寝分離、就寝分離について取扱ったか <input type="checkbox"/> 洋室、和室の特徴等を扱ったか <input type="checkbox"/> バリアフリー、ユニバーサルデザインの取扱いの程度 <input type="checkbox"/> 災害対策の取扱いの程度 <input type="checkbox"/> 防犯対策を取扱ったか	
特記したい既習事項			

1) 「指導記録用紙(原案)」に関する聞き取り調査

作成した「指導記録用紙(原案)」に対して、小・中・高校の家庭科授業担当者全員(18名)が、小・中・高校の指導内容を一覽できることの有効性について言及した。例えば、小学校教諭(教職歴18年)は、「小学校の学習が、中学校や高校にどのようにつながっていくか一目でわかる」と肯定的な評価をしていた。

しかしその一方で、6名は課題についても指摘していた。その内容を表3に示す。「製作物は型紙プリント済みのキットを使用するのか否かを知りたい」、「使用した教材や製作物などを具体的に知りたい」といった要望や「指導の有無だけでなく、授業者がどの内容に重点をおいていたかわかるとよい」といった改善を要する点も指摘された。

表3 「指導記録用紙」について指摘された課題

指摘内容	評価者の属性 (後・教職年数)
<input type="checkbox"/> 製作物は型紙プリント済みのキットを使用するのか否かを知りたい。	小学校 15年以上
<input type="checkbox"/> どのような教材を使用して指導されているのを知りたい。	中学校 5年未満
<input type="checkbox"/> 指導の有無だけでなく、授業者がどの内容に重点を置いていたかわかるとよい。 <input type="checkbox"/> 記述欄が多いと負担を感じるのではないか。 <input type="checkbox"/> 年度ごとに授業担当者名を記入できると問合せができる。また、担当者が変わる場合に、引継ぎにも使用できる。	中学校 15年以上
<input type="checkbox"/> 使用した教材や製作物などを具体的に知りたい。	中学校 15年以上
<input type="checkbox"/> どの程度指導されているか知りたい。	高校 15年以上
<input type="checkbox"/> 全体的にコンパクトにすると使い勝手がよいのではないか。	高校 15年以上

2) 「指導記録用紙」の改善

聞き取り調査の結果を踏まえ、主に以下の3点の改善を加え、表4に示した「指導記録用紙」を作成した。

①取扱いの軽重を3段階で記入

記入した授業担当者自身も自己の指導の軽重を一覧し、振り返りを行うことができるようにした。さらに、それを基に次の校種の授業担当者は、既習事項だけでなくその取扱いの軽重を把握することで、必要に応じて授業での補足を可能にした。

②学習者を入学年度で区別、年度ごとに授業担当者名を記入

学習者および授業担当者の識別を可能にすることで、他校種への問い合わせが容易にできるようにした。また、こうすることで異校種間だけでなく、同じ学校内で担当者が代わる場合の引き継ぎにも活用可能である。

③使用した教材や製作物の欄を設定

実際に授業で用いた視聴覚教材や提示資料、製作物等の記入を促す(表4の※1, ※2)ことで、前校種でどのような指導がなされたかより具体的な申し送りができるようにした。

以上、改善した「指導記録用紙」を再度、小・中・高校の連携に向けた協議を進めている^{注5)}中学校の授業担当者(教職年数27年)1名に記入してもらい、それをさらに協議先の高校の授業担当者(教職年数15年)1名とともに検討してもらったところ、「使用した教材がわかり、指導内容を具体的に把握できる」等の評価が得られた。その一方で、「指導記録用紙」を申し送るだけでなく、「これを基に、他校種の担当者と相互に交流する場が必要」との意見も出され、交流の場の重要性が改めて浮き彫りとなった。

(2) 「ポートフォリオ型ワークシート」の開発

1) 先行実践の検討

「P型シート」の開発にあたっては、堀(2013)が作成した“一枚ポートフォリオ(OPP)シート”を用いた他教科の先行実践について検討した。OPPシートとは、学習者が一枚の用紙に学習前・中・後の本質的な問いに対する考えを記入し、自己評価や指導者の評価等に生かせるワークシートである。すなわち、“評価”を目的にしたシートであり、「単元名タイトル」、「学習前・後の本質的な問い」、「学習履歴」、「学習後の自己評価」の4つの基本的要素で構成されている。

OPPシートを活用した「理科」の実践例(中嶋,2016)においては、シートの“表面”に単元の目標を明記した上で、単元を貫く本質的な問い、例えば「低気圧の中心付近や前線の前後では、どうして雲ができるのだろうか?」に対して、学習前後で記述させ、その比較を通して、評価ができる構成になっている。さらに、単元の学習全体を振り返って、感想や質問を記入させる欄も設けていた。“裏面”は、小单元ごとの学習内容(授業内容のまとめ)及び感想や質問等を記録させ、その記述の程度により小单元ごとの評価もできるようになっていた。

OPPシートを活用した実践は、小单元の内容のまとめや評価ができるとともに、単元全体を通した評価を可能にするものであったが、小・中・高校の接続をめざす視点からは作成されておらず、それを次の校種に申し送る形態にもなっていなかった。

表4 改善後の授業者用「指導記録用紙」

授業者用「指導記録用紙」〔住生活〕				学校名	学年	家庭科授業担当者名
指導状況を、3段階でご記入ください。 ◆指導した・・・・・・○ ◆重点的に指導した・・・・◎ ◆指導していない・・・・(空欄)				小学校	5年	
				小学校	6年	
				中学校	1年	
				中学校	2年	
				中学校	3年	
				高等学校	年	

小学校 (平成23年度入学生)		中学校 (平成29年度入学生)		高等学校 (平成32年度入学生)	
学習指導要領	学習指導要領解説	学習指導要領	学習指導要領解説	学習指導要領	学習指導要領解説
整理・整頓	分類の仕方 収納の仕方	家族の住空間	住空間と生活行為のかかわり 共同生活の空間 個人生活の空間	住居の機能	生活の場としての住居の条件 ライフステージに応じた適切な住居の計画や選択 耐久性の高い住宅
清掃の仕方	汚れの種類 汚れに応じた清掃の仕方 汚れと時間の関係 住居用洗剤の使い方(表示) 多様な清掃用具の使い方	住居の機能	家族によって住まい方が異なる 自然から保護する働き 心身の安らぎと健康を維持する働き 子どもが育つ基盤としての働き	住居と地域社会とのかかわり	地域の住環境 地域施設との関係 集まって住むためのルール
暑さ・寒さ	室内の温度や湿度の調節 室内の空気の流れの調節	安全を考えた室内環境の整え方	室内を安全で安心できる状態にする必要性 家庭内事故の原因と防ぎ方 自然災害への備え	安全で環境に配慮した住生活	防火・防犯・耐震等の安全性 日照、採光、換気、遮音、温熱・空気環境 地球環境への配慮 高齢者や障害者等に配慮したバリアフリー住宅
通風・換気	夏季にすずしく過ごすための通風の仕方 冬季における汚れた室内空気を入れ換えるための換気の方法	快適な住まい方	室内の空気調節(化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニ等による室内空気の汚染) 快適な生活に及ぼす音の影響 快適さの感じ方(個人差がある)		
採光	適度な明るさを確保する必要と方法 室内の明るさが異なる条件				
①使用した教材等 ^{※1}		①使用した教材等 ^{※1}		①使用した教材等 ^{※1}	
②製作物 ^{※2}		②製作物 ^{※2}		②製作物 ^{※2}	
③その他(小学校から中学校・高校へお伝えしたい事項 等)		③その他(中学校から小学校・高校へお伝えしたい事項 等)		③その他(高校から小学校・中学校へお伝えしたい事項等)	

※1 「使用した教材等」については、授業中に使用した視聴覚教材(例えば、ビデオ「○○○(△△出版)」)や教科書以外に使用した資料名などをご紹介ください。
 ※2 「製作物」については、キット使用の有無もお知らせください。

2) P型シートの構成視点

以上をふまえて本研究では、次の3点に焦点を合わせて「P型シート」の開発を行なった。

1点目は、前述の先行実践におけるOPPシート活用では意識されていなかった小・中・高校の円滑な接続であり、2点目は、緒言で述べた、これまで学校現場においてたびたび生じている“指導した”とする内容と、“学んだ”とする内容とのズレの把握をしつつ、学習者の既習状況を捉え、指導できるようにすることである。

そして3点目は、学習内容と“自己とのかかわり”に学習者自身が目を向けられるよう、メタ認知的に把握できるようにすることである。

開発した小・中・高校の住生活に関連した「P型シート」のうち、小学校及び高校の両校種に接続する中学校用を資料1に例示した。

資料1 題材「快適に住もう」での「P型シート（中学校用）抜粋

【表面】

<h2 style="margin: 0;">快適に住まう</h2>  <p style="margin: 10px 0;">() 中学校 () 年 () 組 () 番</p> <p style="margin: 10px 0;">氏名 () ()</p>	<p>[B：学習を終えて]</p> <p>Q. 快適に住まうために気をつけたい（気をつけている）ことを書いてみよう。</p>
<p>[A：学習を始めるにあたって]</p> <p>Q. 快適に住まうために気をつけている（気をつけたい）ことを書いてみよう。</p>	<p>[C：学習を振り返って]</p> <p>Q. AとBを比較して、気づいたことや考えたことはありますか？また、もっと調べてみたいことがありますか？</p>

【裏面】

<p>1. 住まいの役割</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>2. 共に住まう</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>3. 住まいの安全対策</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>4. 災害への備え</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>
<p>5. 災害への備え②</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>6. 室内の空気調節</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>7. 住まいと音</p> <p>本日の私のキーワード</p> <p>〇特に大切だと思ったことや印象に残ったこと</p>	<p>授業に関連した実践</p>

*シートは一部を拡大表示

まず【表面】A欄「学習を始めるにあたって」で既習内容およびその定着程度を学習者に振り返らせている。資料1においては「快適に住まうために気をつけている（気をつけたい）ことを書いてみよう。」と促している。これにより学習者自身がこれまでの住まいとのかかわりを意識するとともに、授業担当者も既習内容の定着度を把握できるようになる。

その後、毎時間の学習後に、【裏面】の「本日の私のキーワード」の欄に、学習者が“学んだ”とする内容を端的に表現させ、「特に大切だと思ったことや印象に残ったこと。」を、学習者自身の言葉で具体的に記入できるようにした。これが、OPPシートとの大きな違いであり、授業のまとめ（何を教えたか）ではなく、“何を学んだか”を捉えようとするものである。したがって、学習者によって記述内容が異なることが予想されるが、それがまさに、“学ばれたもの”ということになる。これにより、時には授業担当者が教えたつもりになっていても、学習者が学んでいないことが明らかになり、授業担当者は学びを補完して次の学校種へつなぐことができるようになるだろう。

なお、【裏面】には「授業に関連した実践」の欄も設け、学習者に題材で学んだ内容を家庭での実践につなげることに意識を向けさせるようにした。

題材が終了した後は、再び【表面】に戻り、A欄と同じ問いのB欄に記入させ、それらを比較させる（C欄）ことで、授業を通して学習者自身がどれほど“自己とのかかわり”において、学習内容を捉えられるようになったのか見つけることができるようにした。

さらに、“小・中・高校の学びをつないでいく”ために、「P型シート」の書式を各校種で揃えた上でファイルに綴じる形式とし、学習者が次の校種へ持ち上ることができるようにした。これにより次の校種において学習者自身が既習事項を見直すことも容易になり、授業担当者も小・中・高校のつながりを意識した授業展開が可能になるだろう。

3) 「P型シート」を用いた授業の試行と課題

「P型シート」の有効性について検討するとともに、小・中・高校の連携を推進していく上での課題を明らかにするために、表5に示した授業を高校「家庭基礎」において実施し、学習者が「P型シート」（【表面】A～C欄および【裏面】本時の記入欄）に記述した内容について分析を行った。

①授業の概要

本題材「住居と住環境」（全4時間）は、「家族や地域の一員として、安全・環境に配慮した住生活を営むことができるようにする」を目標としており、その概要は表5の通りである。

第1時「ライフステージに応じた住居の条件」の導入時に、まず「P型シート」（資料2）を【表面】のA欄のみに意識が向くよう、二つ折りにした状態で学習者に配布した。そしてそのA欄の「Q. 安全で快適、さらに地球にやさしい住生活を営むために配慮している（配慮したい）ことを書いてみよう」を記入させた上で、中学校での既習内容（住居の機能）について振り返らせた。その後、異なるライフステージにある家族が、同じ間取りに住まう場合の配慮事項について考えさせた。

第2時「快適で安全な住居」では、バリアフリーや防犯、シックハウスなどの室内環境問題等の観点から安全で健康かつ快適な住まいについて、ジグソー法による学習を行った。

そして、第3.4時（本時）「共生をめざした住まい方」で、“環境への負担への配慮や他者と共に住むための配慮について考えられるようになる”ことを目標として、住居のメンテナンスへ着目した学習やシェアハウスでの同居を想定した学習を行なった。

なお、各時間の終了時に、【裏面】の「本日の私のキーワード」と「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」の記入を行わせており、題材終了後に【表面】B、C欄の記入をさせた。

表 5： 題材「住居と住環境」の概要（全 4 時間）

対 象：公立工業高校 3 年生（男子 40 人）

時 期：平成 28 年 12 月


授業者：教諭（教職年数 15 年）

時間	小題材名／目 標	授 業 内 容
1	「1.ライフステージに応じた住居の条件」 ・住居の機能について振り返り、 ライフステージの変化に応じた 住居の条件について説明する ことができる。	1. P型シート【表面】A欄記入 2. 住居の機能(中学校既習内容) 3. ライフステージに応じた住まい方 4. P型シート【裏面】「キーワード」等記入
2	「2.快適で安全な住居」 ・快適で安全な住環境の条件について 説明することができる。	1. バリアフリー住宅 2. 快適で安全な住生活 ※ジグソー法 3. P型シート【裏面】「キーワード」等記入
3,4 (本時)	「3・4.共生をめざした住まい方」 ・環境への負荷を減らす住まい方について 説明することができる。 ・住まいに求めるものが異なる人々の 多様な視点に立って、互いの生活を 尊重しながら共生する住まい方について 要点を挙げることができる。	1. ものとの共生（メンテナンスの重要性） 2. シェアハウスの想定から考える人との共生 3. P型シート【裏面】「キーワード」等記入 ↓ 【表面】B欄記入 ↓ 【表面】C欄記入

資料 2 題材「住居と住環境」での「P型シート（高校用）」抜粋

【表面】

住居と住環境



() 高校 () 年 () 科 () 番
氏名 () ()

【A. 学習を始めるにあたって】

Q. 安全で快適、さらに地球にやさしい住生活を営むために配慮している（配慮したい）ことを書いてみよう。

【B. 学習を終えて】

Q. 安全で快適、さらに地球にやさしい住生活を営むために配慮したい（配慮している）ことを書いてみよう。

【C. 学習を振り返って】

Q. AとBを比較して、気づいたことや考えたことはありますか？
また、もっと調べてみたいことがありますか？

【裏面】

1. ライフステージに応じた住居の条件

本日の私のキーワード

〇特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと。

2. 快適で安全な住居

本日の私のキーワード

〇特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと。

3. 4. 共生をめざした住まい方

本日の私のキーワード

〇特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと。

→
→

授業に関連した実践

②「P型シート」の有効性と課題

分析対象としたA欄「Q. 安全で快適、さらに地球にやさしい住生活を営むために配慮している（配慮したい）ことを書いてみよう」に関する学習前の記述の総数は95であった。各記述を小・中学校学習指導要領の内容A～Dを視点としてその記述数の割合を示すと、図1の通りであった。「節電・節水」など省エネに関することや「ゴミ処理」に関する記述など内容D「身近な消費生活と環境」に関連した記述は86.4%あったものの、「住空間や室内環境」など内容Cの「住生活」で学習した内容への言及は、全記述の12.6%にとどまっており、それらに関する前校種での学びの定着が不足していることが懸念された。

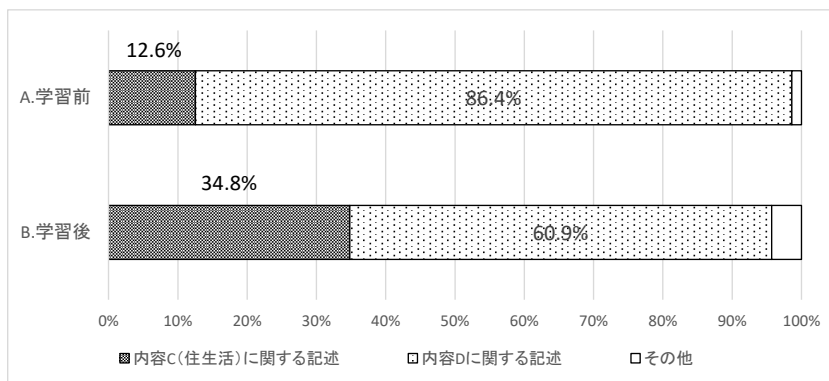


図1 “住生活を営むための配慮”に関する記述内容

次に、学習者が第3.4時終了時に記入した【裏面】「本日の私のキーワード」と言及した人数を表6に示す。ワークシートに記載されている“共生”や“シェアハウス”などの用語をそのまま挙げる学習者もいたが、それ以外にも「気配り」や「他人への配慮」、「シェアは思いやり！！」、「一緒に過ごすためには」などを挙げていた。同じ授業でもその捉え方は多様で、提示された言葉に束縛されない学習者独自の表現をしていることがわかる。

表6 「本日の私のキーワード」

共生（をめざした住まい方）⑥、シェアハウス⑥、共同生活③

気配り①、他人への配慮①、思いやり②、シェアは思いやり！！①、一緒に過ごすためには②、シェアハウスなんてたまるか①、シェア（の仕方）②、部屋選び②、固定概念①、コミュニケーション①、音①、自分の家が一番①、共に住むために必要なこと①、考え・主張①、相手のことを考える①、プライバシーを守って①、個人の尊重①、他人と生活する中で気をつけること①、協調①

*1: No. は、学習者の識別番号

*2: ○の数字は言及した人数（無記入は2名）

表7 本時「共生をめざした住まい方」における記述例

No	本日の私のキーワード	特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと
18	共に住むために必要なことは	周りの人に迷惑をかけないように考えることが大切だと思いました。リフォームや定期点検を実施していく。メンテナンスも考える。
33	共生のことについて	他者と一緒に住むときには、全員が全員のことを考えることが大事だと思いました。僕はシェアハウスに入りたいとは思いません。
9	部屋の選び方	3交代で夜遅く帰る人は周りに迷惑をかけるので、シェアハウスはやめた方がいいと思った。
10	共生をめざした住まい方	シェアハウスは共同生活ということなので、自分の利便も考えることも大切だが、他者のことも考えることも大切である。
27	シェアは思いやり！！	細かいところまで目を配る。自分だけでなく、他人まで考えた上で決断する。
35	他人への配慮	自分がされたら嫌と思うことを他の人にしないような配慮をしながら、生活しないとけないと思った。

*No. は、学習者の識別番号

表7には「特に大切だと思ったことや印象に残ったこと」の記述例を示した。学習者18は「周りの人に迷惑をかけないように考えることが大切だと思いました。リフォームや定期点検を実施していく。メンテナンスも考える。」のように、自分の挙げたキーワード「共に住むために必要なことは」の補足をしつつ記述していた。

一方、学習者33は「他者と一緒に住むときには、全員が全員のことを考えることが大事だと思いました。僕はシェアハウスに入りたいとは思いません。」と記述していた。授業の意図は伝わっていたものの自分の問題として考えた時には、他者と共に暮らすのは大変で受け入れ難いという本音をのぞかせている。

このように「P型シート」の【裏面】には、授業内容（授業者が教えたこと）のまとめではなく、学習者なりの表現で、学習者が捉えた内容（学んだこと）が記述されていた。そのため、学習者によっては、学習者9のように「部屋の選び方」をキーワードに挙げている例もみられた。本時（第3.4時）においては、“どの部屋を選ぶか”の検討は、学習者が相互作用を通して思考を深めるための手段であり、“共に住まうにあたって、何が求められるのか考えられるようになること”を目標としていた。したがって、それらのキーワードを挙げている学習者においては、目標が達成されていないことが懸念された。そのように授業者が「指導した」とする内容と“学んだ”とする内容とのズレを一目で把握することができたといえる。

表7の学習者18、33、10、27、35のように、本時（第3.4時）の目標の一つである“他者と共に住まうための配慮”に言及していた学習者は40人中26人いたものの、もう一つの目標であった“メンテナンス等における環境への配慮”への言及は3人とどまった。そのため、授業担当者は学習者の「P型シート」へ「メンテナンスの問題についてはどうだろう？」と授業

後にコメントを入れることで、人のみならず、モノ（環境）との共生にも目を向けるよう促していた。前述のようにズレの把握が容易になったことにより、直後に「P型シート」へコメントし学習者にフィードバックを与えることも可能になったといえる。

本題材（全4時間）終了後、【表面】のB欄「Q. 安全で快適、さらに地球にやさしい住生活を営むために配慮したい（配慮している）ことを書いてみよう」に記入させた。総記述数は115で、内容C（住生活）への言及は34.8%、内容Dへの言及は60.9%であり、学習前と比較すると、内容Cにも目が向けられるようになっていた（図1）。さらにC欄「AとBを比較して気づいたことや考えたことはありますか？また、もっと調べてみたいことはありますか？」について記入させた。その記述例を表8に示す。感想その他にとどまっていた学習者が40名中18名、学習者7,23のように学習前後の比較をただけの者が9名いた。しかし、13名は“自らとのかかわり”において、題材での学びを捉えていた。例えば、学習者12は「自分が考えていたより、家では多くの対策をしないといけないと思った。」、学習者28は「どういうことが重要なのか、どういうことが大切なのかということを見る視点が変わった。」、学習者35は「「A」では、自分目線だったが、「B」では他の人からの目線になっていたので、見方を変えらという点で成長できたと思う」と記述していた。C欄への記入によって、学習対象への自らのかわりに目を向けさせ、学習者自身に自らの変化を意識させる可能性が示されたといえよう。

以上のように「P型シート」の有効性が示された一方で、課題も明らかになった。「P型シート」は各授業終了後に「キーワード」や「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」を記入させているが、従来のワークシートにも「感想」などの欄が設けられている場合がある。「P型シート」では、主観的な感想を求めるのではなく、授業において学ばれた（内化された）ものを捉え

表8 C欄「学習を振り返って」の記述例

7	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に同じだが、また知識が一つ増えた。 ・ユニバーサルデザインについて知りたい。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えていたより、家では多くの対策をしないといけないと思った。 ・住んでいる人や、環境に合わせて暮らさないといけない。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮したいことが3つに増えている
28	<ul style="list-style-type: none"> ・どういうことが重要なのか、どういうことが大切なのかということを見る視点が変わった。 ・「A」では、こうだからこうという理由はないが、「B」では、具体的なことができた（理由がある）
35	<ul style="list-style-type: none"> ・「A」と「B」で同じ意見はあるが、新たに出た意見があるので良かった。 ・「A」では、自分目線だったが、「B」では他の人からの目線になっていたので、見方が変えらという点で成長できたと思う。

*番号は、学習者の識別番号

ようとするものであるが、それらを併用する場合に記述内容の重複が懸念された。「P型シート」に記入する内容についての学習者への言葉かけや、併用するワークシートの内容との調整が必要であることが示された。

4. まとめと課題

本研究では、小・中・高校における家庭科での学びをつないでいくことを目的として、授業担当者が他校種の指導内容を相互に把握できる「指導記録用紙」と、学習者一人一人が“学んだ”とする内容を把握できる「P型シート」を開発するとともに、それらの試行的活用・検討を通して小・中・高校の連携の課題について検討を行った。

(1) 「指導記録用紙」の開発

小・中・高校の学習指導要領等をもとに、各学校種の指導事項を一覧・チェックできる「指導記録用紙」の原案を作成した上で、授業担当者に記入を依頼し、その評価について聞き取り調査を行った。それらをふまえて、指導の軽重を把握しやすくするとともに、授業担当者間の問い合わせや使用した教材の具体的な把握を容易にするなどの修正を加えた「指導記録用紙」を作成した。

(2) 「P型シート」の開発と試行

OPPシートを活用した先行実践をふまえた上で、小・中・高校の連携を可能にする「P型シート」を開発した。さらにそれをを用いた授業を試行した結果、「P型シート」によって、学習者は既習内容を振り返ることができるとともに、授業担当者は、その定着度を把握することができた。

前校種の「指導記録用紙」にチェックされていた内容（“指導した”とする内容）と、「P型シート」に学習者が“学んだ”として記述した内容を照らし合わせることで、そのズレを把握することが可能になった。また毎時間の授業においては、指導した内容を学習者がどのように捉えたのか、「本日のキーワード」等で容易に把握でき、授業の目標とそれらがズレていた場合には、直後にコメント等を通してフィードバックを与えることができた。またそれらを手がかりに、授業担当者は授業改善を図ることができるといえる。

さらに、学習者自身も「P型シート」（表面）への記入を通して、“自らとのかかわり”において学習内容を捉えられるようになったことを自覚できることが示唆された。

これらの結果に加え「P型シート」を学習者が次の校種へ持ち上がる形式としていることにより、学習者に前校種での既習内容を振り返らせ、小・中・高のつながりを意識させる授業展開が可能であると考えられた。しかしその一方で、他のワークシートとの関係性についての検討も必要であった。

以上の検討を進める過程で、小・中・高校の授業担当者が相互に交流する場の重要性が、改めて浮き彫りとなった。しかし授業担当者同士が現実顔に顔を合わせる場を設定するのは困難な状況にある。したがって、今後は「指導記録用紙」や「P型シート」を「eポートフォリオ」^{注6)}のように電子ファイル化することによって、情報の共有や相互交流を図っていくことが重要な課題といえる。

注記

- 注1) 公立高校1年生(41名)を対象に、平成24年4月に「家庭総合」において、小・中学校における被服実習に関する既習事項や生徒の技能の程度を把握するためのアンケート調査を行った結果の一例である。
- 注2) 教科書の記載内容の分析については、学習指導要領や同解説に基づいているとはいうものの、出版社によってそれらにばらつきがあるため、今回は分析対象から外した。
- 注3) 教職歴は、小学校教諭:15年以上4名、5年未満1名、中学校教諭:15年以上5名、5年未満2名、高校教諭:15年以上6名である。
- 注4) 分析対象は、以下の通りである。
 文部科学省.(2008a). 小学校学習指導要領(平成20年3月).(pp.88-91) 東京:東京書籍.
 文部科学省.(2008b). 中学校学習指導要領(平成20年8月).(pp.98-104) 東京:東山書房.
 文部科学省.(2008c). 小学校学習指導要領解説家庭編. 東京:東洋館.
 文部科学省.(2008d). 中学校学習指導要領解説技術・家庭編. 東京:教育図書.
 文部科学省.(2009). 高等学校学習指導要領(平成21年3月).(pp.117-118) 東京:文部科学省.
 文部科学省.(2010). 高等学校学習指導要領解説家庭編. 東京:開隆堂.
- 注5) 小・中連携については平成23年度から、中・高連携は平成28年度から協議を開始している
- 注6) 「eポートフォリオ」とは、レポートや授業プリント、教師のコメントなど、学習者の「学び」に関わるあらゆる記録をデジタル化して残すこと。

引用・参考文献

- 福良維素子他.(2013). 家庭科教育における小・中連携の授業実践:合同授業による調理実習の検討. 宮崎大学教育文化学部紀要教育科学,29.1-10.
- Hori,T.(2011).Concept and Effectiveness of Teaching Practices Using OPPIA. Educational Studies in Japan : International Yearbook,(6),47-67.
- 堀哲夫.(2013). 教育評価の本質と問う一枚ポートフォリオ評価OPPIA (pp.20-21). 東京:東洋館.
- 文部科学省.(2008a). 小学校学習指導要領(平成20年3月).(pp.88-91) 東京:東京書籍.
- 文部科学省.(2008b). 中学校学習指導要領(平成20年8月).(pp.98-104) 東京:東山書房.
- 文部科学省.(2008c). 小学校学習指導要領解説家庭編. 東京:東洋館.
- 文部科学省.(2008d). 中学校学習指導要領解説技術・家庭編. 東京:教育図書.
- 文部科学省.(2009). 高等学校学習指導要領(平成21年3月).(pp.117-118) 東京:文部科学省.
- 文部科学省.(2010). 高等学校学習指導要領解説家庭編. 東京:開隆堂.
- 文部科学省検定済教科書.(2012). 家庭基礎:明日の生活を築く. 東京:開隆堂.
- 文部科学省検定済教科書.(2014). 小学校わたしたちの家庭科5・6. 東京:開隆堂.
- 文部科学省検定済教科書.(2015). 技術・家庭〔家庭分野〕. 東京:開隆堂.
- 中嶋他.(2016). 基礎力・思考力・実践力の高まりを評価できるOPPIAを取り入れた授業の構築と実践. 宮崎大学教育学部附属中学校.平成28年度研究紀要,40-45.
- 野中美津枝, 増子律子.(2016). 家庭科における小中連携のための実態調査:小学生中学生の衣生活・住生活と家庭科の指導の状況. 茨城大学教育実践研究,35.145-155.

- 岡陽子, 大島和子他 . (2017) . 佐賀県における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題 . 佐賀大学大学院学校教育学研究科研究紀要 ,(1),3-12.
- 塩谷敬子, 佐藤裕紀子 .(2014). 家庭科教員の他校種理解に及ぼす異校種間交流の影響と小中連携の課題 . 茨城大学教育実践研究 ,33.71-79
- 高崎昌己, 佐藤裕紀子 .(2015). 知識・技能と課題の明確化を図る家庭科のガイダンスの提案: 小・中学校のつながりに着目して . 茨城大学教育実践研究 ,34.249-258.
- 山村季代, 伊波富久美 .(2017). 宮崎県における小中連携教育及び小中一貫教育の現状と課題 . 宮崎大学教育学部紀要 ,(89),13-21